



Technical Data Sheet (TDS)

(WET SURFACE & UNDERWATER REPAIR EPOXY MORTAR)

KANパテ コンクリート

○製品の特長

- ◇ 乾燥状態の環境はもちろん、湿潤面であっても安定した接着力と強度を発現する
- ◇ セメントやモルタルと比較し接着力や曲げ強度に優れ、中性化抑制や防錆などの効果も期待できる
- ◇ プライマー不要で、湿潤面のコンクリートやモルタルに良好に接着する
- ◇ 硬化後は高耐久性に優れるので、フォークリフト、車両の往来にも耐える
- ◇ コンクリート床の損傷部や段差の補修がほぼ一日で完了できる(ただし、冬期は硬化が遅くなる)
- ◇ エポキシ樹脂をベース材としているので、水、油、強アルカリ、弱酸などの耐薬品性に優れる

○主な用途

- ◇ 工場、倉庫、駐車場などのコンクリート床の穴や段差、側溝などの損傷部の修復
- ◇ ポンプやモーター等の据付基礎、防液堤の欠落部の修復など
- ◇ 塗る滑り止め材・「すべり止めコート」の不陸調整用

○性状・特性一覧

項目		主剤	硬化剤	骨材	備考
配合比率	重量比(wt.)	2	1	13	
色調	外観	無色透明	淡黄色透明	薄茶～薄灰	硬化後: 薄茶～薄灰
粘度	mPa・s	低粘度モルタル状			壁、天井面へ塗布すると垂れ落ちる
冬期	可使時間	分	60		300gスケール、10℃
	硬化時間	時間	人(歩行): 24 / 車輛(往来): 72		5mm厚み、10℃
春秋	可使時間	分	40		300gスケール、25℃
	硬化時間	時間	人(歩行): 8 / 車輛(往来): 24		5mm厚み、25℃
夏期	可使時間	分	20		300gスケール、35℃
	硬化時間	時間	人(歩行): 3 / 車輛(往来): 9		5mm厚み、35℃
比重	硬化物	1.6			JIS K 6911準拠
硬さ	ショアーD	80			
引張強さ	MPa	3～7			JIS K 6911準拠
曲げ強さ	MPa	15～24			JIS K 6911準拠
圧縮強さ	MPa	30～40			JIS K 6911準拠
建研式接着強さ	MPa	※1) 2～3			コンクリート-Fe / 乾燥面
		※2) 1～2			コンクリート-Fe / 湿潤面
使用温度範囲	℃	-40～95			
塗布可能面積	m ² (5mm厚み時)	0.125			1kg当たり/ロス分見込まず

※上記のデータは、参考値として記載したものであり、保証値ではありません。

※1): 「乾燥したコンクリート表面」に「大気中で治具を接着」したものの結果は、コンクリート面から破壊が生じる。

※2): 「コンクリートを水中に3日間浸漬」し、直ちにコンクリートを大気中に取り出し、治具(鉄製)をコンクリートで、湿潤面へ接着。結果は、接着面から剥がれるものの、湿潤面に対して優れた接着力を発現する。

○製品仕様

- ◇ 4kgset (主剤: 0. 5kg入、硬化剤: 0. 25kg入、珪砂: 3. 25kg入)
- ◇ 18kgset (主剤: 2. 25kg入、硬化剤: 1. 13kg入、珪砂: 14. 62kg入)

○危険物情報

法規制	主剤	硬化剤	骨材
消防法	第4類第3石油類 非水溶性	第4類第3石油類 非水溶性	非危険物
毒劇法	該当しない	該当しない	該当しない

○標準作業法

工程1 下地処理(とても重要！)

【コンクリート】旧コンクリート コンクリート面が劣化している時は、研り作業で健全な部分を露出させる。油分が染み込んでいる場合も同様に健全な部分まで研る。塗装面は除去する。

新コンクリート コンクリートは、打設後1ヶ月前後の養生期間が必要で、その間に完全乾燥させるため、カンクリートの施工は、それ以降に行う。

湿潤面 コンクリート面が劣化している時は、研り作業で健全な部分を露出させる。コンクリート面は水で濡れていても問題は無いが、薬品で濡れている場合は知見が無いのでテストが必要。

【金属面】 サンドブラスト、ベビーサンダー、ワイヤーカップ、ワイヤーブラシ、サンドペーパー等で金属面を露出させ、ガサガサに粗す。(粗面の目安は#40サンドペーパーでのケレン)

工程2 計量・混合(重要！) ☆配合比率は厳守です！ ☆

①混合・攪拌 カンクリートの容器(又はボックスコンテナ等)を用いて主剤、硬化剤骨材を混合する。
最初に主剤と硬化剤を手早く混合する。次に骨材を少しずつ加え混ぜ残しの無いように樹脂成分と骨材の混合・攪拌を行う。



※小分け使用する際は、必ず秤を用いて主剤、硬化剤、骨材を必要な分量を秤取ること。

工程3 塗工 ☆可使時間内に混合・攪拌から塗工までを終わらす ☆

①塗工 コテやヘラを用いてカンクリートを押し付けながら塗り広げる。
目的の厚みになるまで、コテ、ヘラを左右に擦りながらカンクリートの厚みを付けて表面を均す作業を繰り返す。

②仕上げ ☆綺麗な表面に仕上げるためには、有機溶剤を少し使おう！ ☆
コテの裏面(腹)へパーツクリーナーを適時吹き付けながらカンクリートの表面を前後左右に擦りながら均す。

注意！ ⇒ あまり溶剤成分を擦り続けると骨材がボロボロと剥がれます。これは、多すぎる溶剤成分がカンクリートの樹脂成分を薄めてしまうために起こる現象ですので注意してください。

工夫

①枠で囲む ☆カンクリートは壁や天井面に塗布すると垂れ落ちるので、床面以外の施工では工夫が必要 ☆
下の画像は、側溝の壁が一部崩れている箇所を木枠を設置し、カンクリートを詰め込むイメージになります。



また、右の画像はカンクリートの欠損した角部を木枠を設置してカンクリートを詰め込んで補修をするイメージです。



②枠の準備 話が前後しますが、枠組をする際に必要な前処理として“離型処理、”があります。

離型処理をせず木枠を組むと枠にカンクリートが強力に接着してしまうため、必ず枠が取り外せるように“離型処理、”が必要です。

簡単な方法としては、木枠に梱包用のOPPテープを貼ればカンクリートは接着しません。



工程4 硬化養生 ☆硬化時間は、温度と塗布厚みで変わる！ ☆

KANパテは、気温、接着面の温度、塗布厚みで硬化時間が大きく変化する！

⇒ 温度が高いと早く硬化し、低いと遅くなる。また、塗布厚みが厚い方が早く硬化し、薄いと遅くなる。

⇒ 寒い時(15℃以下)は、投光器、温風ヒーター等で加温すると硬化速度を速めることができる！

○使用上の注意

1. 爆発性はありませんが、引火性がありますので使用の際、保管の際にも火気には十分に注意を払って下さい！
2. 取扱い作業所には、局所排気装置を設置して換気には注意をすること！
3. 目や粘膜を刺激することがありますので、必要に応じた保護具の着用をお願いします。例えば、安全メガネ、保護ゴーグル、顔面バイザーなど。
4. 皮膚接触を避けるために長袖上着、軍手、ゴム手袋などを装着します。手袋のような保護具でカバーされず、化学物質にさらされる身体部分(顔、前腕、脚部など)は、エポキシ樹脂製品を取り扱う作業を始める前に、保護クリームで保護します。
5. 眼に入った場合：患部の眼を下になるように頭を傾け、流水でしばらく(アイシャワーの場合10～15分間)洗う。必要に応じ眼科医の診察を受けて下さい。
6. 皮膚接触：樹脂が付着した衣類を脱ぎ、接触部位を流水で注意深く洗浄する。スキนครリーナーを使うと効果的。患部を滅菌した材料(救急箱にある)で覆う。症状が重い場合は医師の診察を受けて下さい。
7. 吸入したとき：新鮮な空気の場所へ移動させ、換気をし、医師の診断を速やかに受けて下さい。飲み込んだとき：大量の水を飲ませ、吐き出しを誘発する。その後医師の診察を受けて下さい。
8. 保管の際は、容器の蓋を密栓し外気と遮断してください。また子供の手の届かない冷暗所に静置して下さい。
9. 漏洩時は、換気を行いながらウエスで拭き取る(少量漏洩)か砂等を撒いてスコップ等で回収(大量漏洩)して下さい。
10. 廃棄の際は、正規の廃棄物処理業者に依頼して下さい。
11. 火災時は、泡消火器や粉末消火器、二酸化炭素消火器を用いて消火活動をして下さい。